飛騨市立神岡小学校　　学校だより

かみっこ

合い言葉は
「自ら考える」

令和５年５月１９日

たがいの「違い」を認め合う

校長　平澤　啓介

神岡小学校では、「なかよし活動」に取り組んでいます。１年生から６年生までの児童で「なかよし班」という異年齢のグループをつくり、一緒に掃除や遊びをする活動です。４月２１日に「なかよし出会いの会」があり、１年間の活動をスタートしました。

毎日の掃除はなかよし班で行います。いろいろな学年が一緒なので、活動を軌道に乗せるまでが大変です。１年生が入学したばかりの４月には、水の汲み方から雑巾の絞り方、床の拭き方まで、ていねいに教える上級生の姿がありました。分担や掃除の仕方を１つ１つ確かめ、どの児童もしっかり掃除ができるように教えています。また、なかなか上手に掃除ができない下級生もいるのですが、決して怒ることなく、何度でも優しく教えています。気長に関わる上級生の姿を見ると、本当に頼もしく感じます。

なかよし班の遊びは、月に１回程度、昼休みに行います。一人一人の好みが違うので、遊びを考えるのも一苦労です。特定の学年の好みに合わせると他の児童が楽しめなくなるので、上級生は班員みんなが楽しめるように内容やルールを工夫します。ちょうどこれから、１回目のなかよし遊びの計画を立てるところです。

このなかよし活動は人との関わりを学ぶ大切な機会になっています。当たり前ですが、児童は一人一人違います。物事の考え方も違いますし、得意なことや苦手なことも違います。いろいろな「違い」のある児童が一緒に活動するからこそ、おたがいの「違い」に気付くことができ、それを認め合えるようになると考えています。

そのためには、私たち大人が寛容な心で他者と関わる姿を示すことも大切だと思います。そして、神岡小学校の児童が「違い」を認め合い、相手を思いやる心をもった人に成長することを願っています。

児童の「違い」を認めるためには、その子の得意や苦手を理解することが大切です。お子さんの様子についてご心配などがありましたら、学校にご相談ください。また、飛騨市には、支援センター「ふらっと」や作業療法支援「はびりす」などがあります。専門的な立場から助言をいただくことができますので、ご活用ください。